



小中学生新聞



防災への気持ちをペットボトルに

熊本地震から5年、その先へ。

水の国くまもと 未来予想図プログラム

2016年4月に起きた熊本地震。災害に遭って私たちはあらためて、水がとんでも大切なことを痛感しました。あれから5年がたち、震災を覚えていない子どもたちも増えていきます。サントリホールディングスと熊本日曜新聞社は、水のストックなど日頃から災害に備えることの大切さを子どもたちに学んでもらい、被災体験を次の世代に引き継いでいくことを目的に、ペットボトルのラベルデザインを体験する「防災ワークショップ」を開催しました。

小学4年から中学3年まで12人の「くまTOMOサポーター」を前に、熊本大学熊本創生推進機構の田中尚人准教授がワークショップの総合監修と進行役を務めました。講師の防災士しほママこと柳原志保さんは東日本大震災と熊本地震の両方を経験した体験を伝

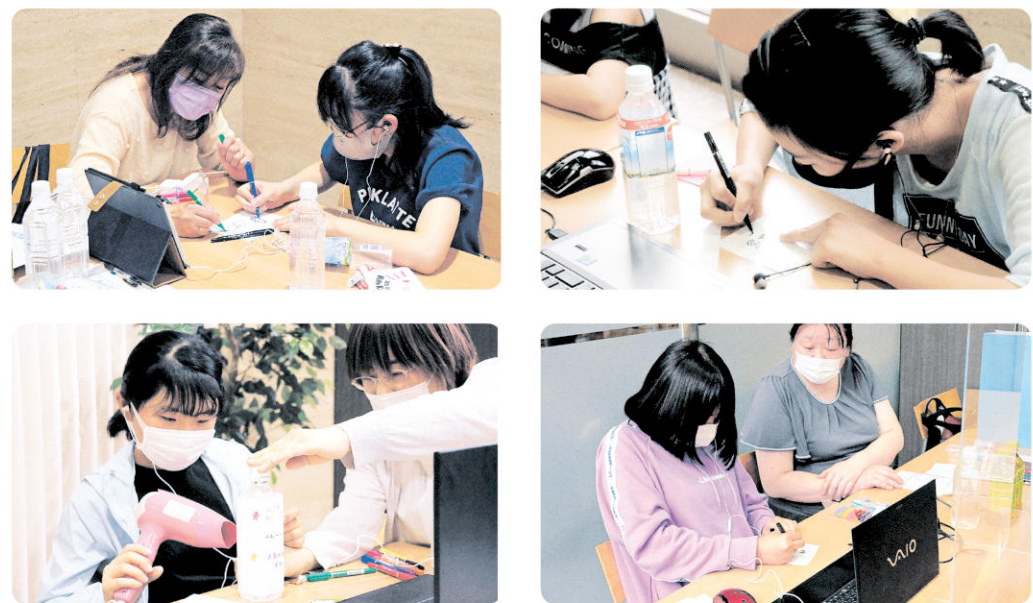
え、俳優で演出家の松岡優子さんがコメントーターとして思いを表現することなどを話しました。子どもたちは、ラベルにペットや虹の絵を描いたり、賞味期限を大きく書いて、思いを込めたペットボトルを作っていました。



どうデザインがいいのかな？

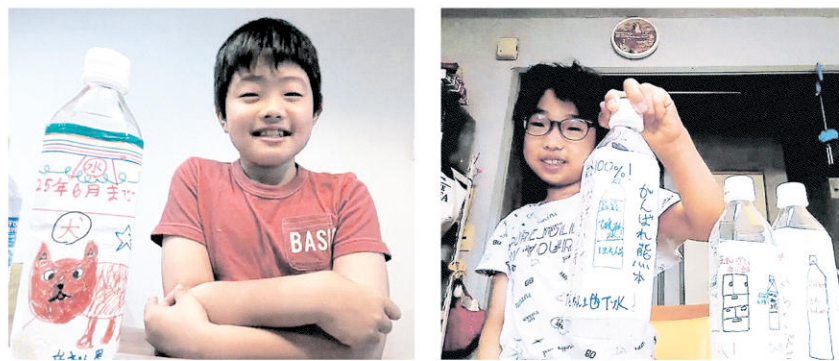
自宅用備蓄水のラベルをデザイン！

まずペットボトルのラベルをはがし、熱で収縮する白いシュリンクラベルを好みのサイズにカット。油性ペンを使ってラベルにデザインします。デザインするときは、どういう場面で備蓄水を使うのか、誰が使うのか、どこに保管するのかがポイント。デザインができればラベルをペットボトルに巻き付け、やけどに注意しながらドライヤーの熱をあてると、ラベルがボトルに密着します。これで世界に一つだけのペットボトルが完成。



●主催：熊本日曜新聞社、サントリーホールディングス株式会社 ●後援：熊本県、御船町、嘉島町、益城町、南阿蘇村、熊本大学 熊本創生推進機構

オンラインでワークショップをしたよ！



講師の紹介

■総合監修・進行役 田中 尚人さん
熊本大学熊本創生推進機構准教授
京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻修了、博士(工学)。2010年から現職



■講師 柳原 志保さん
防災士 愛称・しほママ
宮城県出身。2011年の東日本大震災と16年の熊本地震を経験した防災士。和歌山在住

■コメントーター 松岡 優子さん
SARCK(さるくく)代表
舞台俳優、演出家、舞台制作者、平成音楽大学講師。熊本地震後に復興支援団 SARCK 設立



“もしも”に水で備えよう

熊本の小・中学生たちのオリジナルボトル

「みんな大好き」
かぞくみんなが大好きだからかきましたにじと はっぱと目と星がぼくは好きだからこの えをかきました。 福永大智

「みんな笑顔！」
被災した方や普段のむ時でもみんなが笑顔に なれるように、手をつないで笑っている所と、 みると幸せな気持ちになれる不安をやわらげ られるように花、クローバーをかきました。 内山ほのか

「大切な水」
南阿蘇村に行った時に、たかさんのわき水が有り 熊本は水にめぐまれていると思ったので、それを イメージしながらかきました。 本山大登

「がんばろう熊本！ 地下水いっぱい熊本！」
地下水つかってある水！というのを考えました 熊本は水おいしいよ！おうえんしよう！という のを考えました。 嶋谷ゆうみ

「大切な水」
水は、みんなにとって大切な物なので、みんなに 大切にもらいたいなと思いついたデザインに しました。そして熊本の地下水はほんかん している、水がじゅんかんしている絵も かきました。 吉田大聖

「大切な水みんなの飲む水」
水がどれだけ大切な物なのか考えて作りました。 奈良原惺花

「家ぞくへの思い」
水のさいきやじしんなどのさいおきおきもぼくの えを見て家ぞくにわらってほいので、家ぞくの ことを思っかきました。 大窪諒也

「自分を大切にしよう!!」
今、コロナがやっているから、なおさら「手を 洗おう」や「体を大切に」などのメッセージを 書きました。賞味期限を大きく書いて、大事 なことだと伝えるために赤字で書きました。 佐々木百華

「笑顔になるびちく水」
大事なときでもこれを見てみんなに笑顔に なってほしいと考えて作りました。 荒尾光月希

「鳥と水」
ペットのインコと水を考えたりつくりました 節水やびちくなどの必要性など今日知った 事を記憶に残すメッセージになれば良いと 思いつきました。 谷口怜衣

「備ちくしよう 家族やみんなの水」
みんな(大人から子供まで)がのめる水を考え て つくった。もしものときの避難所やメモらんを 作って電話番号をかけるようにしました。 奈良原惺花

「宇宙」
災害時に持ち出せるように。 村上達哉

災害のとき、どんな備えが必要だろう？水は飲むだけでなく、いろんな「もしも」に使えます。みなさんのおうちでも、家族で水のつかいみちを考えながら備えてみてください。

特別サイトでみんなの 声や写真も見えるよ！

